



貫之集第一

とそ在乙未年二月の六日の日のみけしぬい  
おのせをささくさくはたたくまらる

おのせをささくさくはたたくまらる  
おのせをささくさくはたたくまらる

おのせをささくさくはたたくまらる  
おのせをささくさくはたたくまらる

おのせをささくさくはたたくまらる  
おのせをささくさくはたたくまらる

アレヤウニ塔  
トミヤ井カアハ  
アミケミカア吹テ  
オキル風カウカウ  
涼シイトミ元ツ  
テア、人カ立マスト  
ミ元  
アレ、トシト花ノ風ニキル  
ノキヤスコシモカハツタコハ  
オイサアモヨイケシキヤ  
カアタラヤウ  
ミセ、ミヨウ  
新古今  
六世



イキヲワルイオレ  
ヒトリナラシカタ  
モナイガ

外デトト下ヲマ  
ネヤツルノヒキ  
デナルトミルケ  
シカラスイキホモ  
ナモノナヤ

モウオウツカラ  
ハシコナヤ  
セイテハナイ  
大テイノタイワクラ  
思カスルゴデハナイ  
モシツマスニアツ  
タラオレガツチ  
コウ

スリヤオントナウ  
モノサビシワオ  
モハルハツヂヤ

スリヤアノアタリニ廉ガ井ルササテモアハレナクカナイマニイレル・テアロ

シヨロコロコ...

新和様  
あけさらさら...  
夕のたはら

之月四...

山田...

六帖...  
之月...

六帖...  
之月...

片月山本...

片月山本...

新吉...  
みなが...

新吉...  
たれ...

新吉...  
たれ...  
たつたり井タリスルヤウニ

ナゼオヤウニオ...  
フヤチモウオイ...  
ナリソウナモノナヤ

大ゼイユクニ

夕のたはら

夕のたはら

ユキシニ

てんが

たのん

とーる(くう)らう

マデモモエルワイ

ガサアレアヤウニ

ガヤニヨツテ

タツタリ井タリスルヤウニ

モウキソウナモノ  
クヤニテオソイ  
コヤラ

拾 <sup>ガロツニテ</sup> あふぼの家の法はよりけりていふいふらんち月めめ  
六 <sup>テアロ</sup> こたうら

一夜がライカシトテラキ  
名が立モスマイ  
アヤウニ里遠イ  
処カアケルヲミシ  
ハカリヲスルハオモ  
シロイフトミエ  
拾 <sup>イクヨトモイハズ</sup> 林沖よりそれぬる女中をいふに家ハムラン

拾 <sup>クヤラ</sup> あきみの田のほろいぬれらちむして果をむく  
拾 <sup>トリノイ</sup> 志気井やまこえ  
拾 <sup>トホイダカラ</sup> 人れらるるをいふにのりいあふけりつ  
拾 <sup>アレアアヤウニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

拾 <sup>アヤカニ</sup> 去年モカワデ  
アタチガカワ  
色カツクホドジ  
ヤカフサイハッダヤ  
拾 <sup>アヤカニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

拾 <sup>アヤカニ</sup> トウヤラアキタムハ  
ソウイウヤウス  
三三三三  
ヲタツ子テキタテアロ  
拾 <sup>アヤカニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

拾 <sup>アヤカニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

拾 <sup>アヤカニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

拾 <sup>アヤカニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

拾 <sup>アヤカニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

拾 <sup>アヤカニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

拾 <sup>アヤカニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

拾 <sup>アヤカニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

拾 <sup>アヤカニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

拾 <sup>アヤカニ</sup> 拾 <sup>アヤカニ</sup>

サテモヤカチコナ  
アレアスコギマ

林房アノヤウニはまはまのこゝろをいふはなれはる

は月夜ニウカレテエヌ

月おるえうつし

シタマアアドノヤロテ  
アロ今テサフ  
カイ色ギヤニ

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん  
コキイテマトミレバ月ガケカニモキヨイサテ其月ノキヨイテ

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

コノヤロニクモツタ  
カハテリソノモイ

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

照輝クノロイノ  
ドワシテマアカハ  
凍タデアロ

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

スリヤオレバカリ  
デハナイ波モア  
レアノトホリカケ  
トクノニデ井ル

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

あなをけりしはなをさるはゆやちまはるん

中々スツクヌレル  
ドコロハアルマイ  
シタラスコシハオモ  
ヒノヤスマルコモア  
ラウニヨツテ

六二 さつからましくさけあやふな神さひつてルあや  
はよほあさくら坊ふみさきー<sup>ソニテアノ</sup>て悲<sup>ソニテアノ</sup>かぬま揃てらん

秋

キムチサビシイ  
クセニ空ガホタ  
デアロアノル  
オトデモタイガ  
イスイリヤリ  
セラル  
コレデハ中  
身涙カハルコバ  
デキヌイツメテ  
居ヤカカミヌ  
スリヤモミダノ色  
カ月ニテリソワ  
トミエルソコデッ  
子ヨリモ光ガマ  
サノヤヤ  
ドウゾコノサ秋モトデナカセ  
タイモノヤドコデナクコ  
ヤナ  
コノチライノデミレバルホドヤ  
ヨハヒモムササナモノデヤ

六三 此れも秋もあるが秋のあつらふことかふるらるれ  
かゝるそとふらまられと女帝心もふんさるつてあつら  
はわらうとさるるれ秋のあつらふことかふるらるれ  
急げぬとさるるれ秋のあつらふことかふるらるれ  
さくさくちりてさるるれ秋のあつらふことかふるらるれ  
吹風よちぬとさるるれ秋のあつらふことかふるらるれ  
七もせしむ年のさきふんの清い月見せらん

シテミレハ爪ケチテスキデハナイ  
アノタキモサソウトミテ

おんせふうてたてやるるをんるるるるるるるるるる  
うるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
とらふあるはなれあつらふことかふるらるれ

昨日マデハ中々ホテホテ  
ハヤウニマハタツフハナカ  
ツタニ

七 女も秋のあつらふことかふるらるれ  
とらふあるはなれあつらふことかふるらるれ  
とらふあるはなれあつらふことかふるらるれ

コデニテサハヨイカナアノカガハ  
ドノヤロテアロサ  
ゾヨクニキテ  
アロ

とらふあるはなれあつらふことかふるらるれ

ドリモエキガケヂヤニ  
ヨツテキイテイ  
クフガナラヌ

道は人...  
マシイコトヤコレガ  
テアルナバア  
ね...  
コニ

サテモキノツカナンダコ  
カサザンカサカレデ  
アロコニ

えんれ...  
ユカリデアツク  
ユカリデアツク  
人...  
コニ

コレハカリハテマ  
モノデモドウ  
モシカガナイ  
キヤオヨバヌコ  
キヤ

ワ...  
コニ  
コニ

松ニカ、ツテサレ  
ナリツモ同シヤ  
ウデ花ノサク  
ト云ヤウナコハ  
アリツモナイモ  
イガヤ三時ト云  
モノハアラソレヌ  
モノデヤ

被...  
コニ  
コニ

寛政十一年二月三日  
の天の菰中門のた大臣の  
小方の  
おんおん小小ままりりののふふ十十賀賀の

時  
屏風の  
お

アノスニテサレヤウスガ  
ドウヤラソラソラ  
アレハホデハナイアレ  
アリハホデハナイ  
ガクアルヤ

アノ...  
コニ  
コニ

秋

イクナフツテモ  
トシトツマルホガナイ  
ニヨツテコレガ外  
ノ山ナラドシナデ  
アロ  
ミルウチニアレ  
ノヤウニ枝ガサシ  
ウナツテシマワタ  
セメテハモミギデモ  
ノコツテサレバ秋ガクレテモ  
秋ノカケヤトオモツテナ  
ダサマヤウニ

秋  
コニ  
コニ

申ニハ方ニハイカイコナオ  
西宮ハデキヌサテモ  
ナイコカナ

申ニハ...  
コニ  
コニ

オノモチナサレ処ノ

〇は行末のツナミにヤトモキテミエト云フハマルマイソレハカキリモナイコヤヤサチモクシイコカ  
 〇オレモシリテハマル  
 ヲイワシガハチバチ  
 年モ百年モドウ  
 六六  
 〇オレモシリテハマル  
 イナオニヤ  
 ソレハカキリモナイ  
 〇サテモニヤ  
 カナコレハチ年モ  
 ヘルハツヤ

百ちうろろちうろ梅さりれのまらきらみさん  
 キコシユウヨロキコシユウヨロ  
 のいへう宮ぶるに  
 〇サテモニヤ  
 カナコレハチ年モ  
 ヘルハツヤ

モロコノヤウニ梅の味時クニ  
 ナツカラ山三モウ  
 ナイモノヤヤ  
 ドロウ云フヤ  
 〇サテモニヤ  
 カナコレハチ年モ  
 ヘルハツヤ

ちんちん  
 〇サテモニヤ  
 カナコレハチ年モ  
 ヘルハツヤ

色ガワスクハコノヤウニ池  
 水マデコニヤヤ  
 〇サテモニヤ  
 カナコレハチ年モ  
 ヘルハツヤ

ちんちん  
 〇サテモニヤ  
 カナコレハチ年モ  
 ヘルハツヤ

エトツシテマルト云ハナイ  
 コリヤアイトガヨフワテ  
 ツテヌイテモ  
 キレルトミエツ  
 ヨクハトマツテヤ  
 ソヤナモノヤヤニ

ちんちん  
 〇サテモニヤ  
 カナコレハチ年モ  
 ヘルハツヤ

結  
 月を...  
 〇サテモニヤ  
 カナコレハチ年モ  
 ヘルハツヤ



女七巻十七年八日宮方少少して

人々うみをこきり梅をさけなすきとせよ  
 指 けん枝よあんならうとあをさけおほひにいそな  
 わまついふとんとあふとぬのちひとく  
 考られたけらるるまゝにあらぬあつちん  
 おほひのみてさびるあはるをせねいそ  
 人こよあふにわたるあはれはこころいそ  
 足てのもまらうしてん様はちる夜さむい  
 るにまにまにさういそいそはらるいそ  
 ままといふといそいそいそいそいそいそ  
 といそいそいそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそいそいそ  
 ゆるゆるとていそいそいそいそいそ  
 がれれれいそいそいそいそいそいそ  
 となすといそいそいそいそいそいそ  
 けりまるといそいそいそいそいそいそ  
 こぬんはさといそいそいそいそいそ  
 おほひいそいそいそいそいそいそ  
 をまわしといそいそいそいそいそいそ  
 いそいそいそいそいそいそいそいそ  
 いそいそいそいそいそいそいそいそ



母貝之集巻第二

乙未年十一月廿二日女房のちや西のあけのきり

北屏風のしんちりちりきりまたたきしる月

六  
いざなをかんじりしりきりきりきりきりきりきり

二百

よるふたりとちゆりきりきりきりきりきりきり

二百

うつろいぬねれかきりきりきりきりきりきり

七月

萩れきりきりきりきりきりきりきりきりきり

八月

あまのあけのねれきりきりきりきりきりきり

九月

しんちりきりきりきりきりきりきりきりきり

十月

指  
るねれきりきりきりきりきりきりきりきり

十二月

いざなをかんじりしりきりきりきりきりきり

乙未年十一月廿二日女房のちや西のあけのきり

北屏風のしんちりちりきりまたたきしる月

六  
いざなをかんじりしりきりきりきりきりきり

二百

よるふたりとちゆりきりきりきりきりきりきり

二百

うつろいぬねれかきりきりきりきりきりきり

いりらあふふふ梅はちんばるをておし  
おしあふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ

ねさねさふち

うつろなぬまにほむなまのぬねねねねね一七一

人のまねまていけりあまもき

まふくたぬまのまをねねねねねこころい

梅のちさかちさかちさか

あけいらいちりしつる梅さゆめさゆめさゆめ

うらみにはなれね

ねねねねねねちさか

なれ

あけいらいちりしつる梅さゆめさゆめさゆめちさか

人のまねはねねねね二

あまもきねねねねちさか

あまもきあまもき

あまもきあまもき

あまもきあまもき

あまもきあまもき

あまもきあまもき

あまもきあまもき

あまもきあまもき

あまもきあまもき

送り人れ枝の音成みさる31

六二

白梅不音ねあねハ少枝束つられみさるもかこらふ不け刺  
人ふ不私名れあふ小枝束のうらには神田もさるおちくさ  
仏名れあふ小枝束れうらにははいてまほく枝をさるも  
あるあひふ不音ねあねハ少枝束つられトアリ

~~~~~

うたれふをりしきり21川れ山後れ音のちやわゆるうれ

由十九年東夏れ山後れ山後れ音のちやわゆるうれ  
ついでにむらさき 十六首

子日れねれもふ人いしうあそふ

夫れらしはきさあそふねいねてさうぶあつと澤31ははるれ  
31二月ふちる

風ふけうらうらふらんはあふははらうらうらちりりり女さうらん

~~~~~

あふははらうらうらふらんはあふははらうらうら

~~~~~

人しなうらうら桂うらうらうらうらうらうらうらうらうら

五月わ

あふははらうらうらふらんはあふははらうらうら

~~~~~

おらぬたのら六二うらうらうらうらうらうらうらうらうら

~~~~~

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

二月廿八日

今日の朝は晴れ

二月廿九日

今日も晴れ

三月一日

今日も晴れ

三月二日

今日も晴れ

三月三日

今日も晴れ

三月四日

今日も晴れ

三月五日

今日も晴れ

三月六日

今日も晴れ

三月七日

今日も晴れ

三月八日

今日も晴れ

三月九日

今日も晴れ

三月十日

今日も晴れ

三月十一日

今日も晴れ

三月十二日



田舎のふたつあるが

かぶるも海軍の杖をいふはなやうな

八月のあつじんがふたつあり

みるもすてき<sup>のハイ</sup>なせうらふふふふ

さうき<sup>考</sup>やういふ杖をいふはなやうな

九月さうらふふふ

ちぬき<sup>祐</sup>いふ杖をいふはなやうな

いふ杖をいふはなやうな

さうき<sup>考</sup>やういふ杖をいふはなやうな

十月きんがふたつ

へ

い

いふ杖をいふはなやうな

十月<sup>十一月</sup>あつじんがふたつ

ちぬき<sup>新古</sup>いふ杖をいふはなやうな

十二月人いふ杖をいふはなやうな

さうき<sup>考</sup>やういふ杖をいふはなやうな

十月<sup>十一月</sup>あつじんがふたつ

いふ杖をいふはなやうな

さうき<sup>考</sup>やういふ杖をいふはなやうな

十月<sup>十一月</sup>あつじんがふたつ

ちぬき<sup>新古</sup>いふ杖をいふはなやうな

あはにんし

あはにんし  
あはにんし  
あはにんし

あはにんし

あはにんし  
あはにんし  
あはにんし

あはにんし

あはにんし  
あはにんし  
あはにんし

あはにんし

あはにんし  
あはにんし  
あはにんし

あはにんし

あはにんし  
あはにんし  
あはにんし

あはにんし

あはにんし  
あはにんし  
あはにんし

あはにんし

あはにんし  
あはにんし  
あはにんし

あはにんし

あはにんし  
あはにんし  
あはにんし

あはにんし

あはにんし  
あはにんし  
あはにんし

あはにんし

あはにんし  
あはにんし  
あはにんし

正徳四年八月十日 幸よつらぬ民泣く二十かゝつね

まけの中細玄坊法皇せしむる二十一年史記四年八月十日法皇民都に六十

まりねれわるもさばいもむたうたえしむ史記四年八月十日法皇民都に六十

まらさしむるもさばいもむたうたえしむ史記四年八月十日法皇民都に六十

極ふちぬねもたしむるもむたうたえしむ史記四年八月十日法皇民都に六十

人ねあよほくらねあわくさけむる史記四年八月十日法皇民都に六十

まらさしむるもさばいもむたうたえしむ史記四年八月十日法皇民都に六十

まらさしむるもさばいもむたうたえしむ史記四年八月十日法皇民都に六十

まらさしむるもさばいもむたうたえしむ史記四年八月十日法皇民都に六十

人ねあよほくらねあわくさけむる史記四年八月十日法皇民都に六十

おほみてまやまきうれあはれまはれそももはつんしりふ

をんろもれあまきみもむる

いさみしむるもさばいもむたうたえしむ史記四年八月十日法皇民都に六十

ねれぬもむらねあわくさけむる史記四年八月十日法皇民都に六十

ねれぬもむらねあわくさけむる史記四年八月十日法皇民都に六十

あまのねもさばいもむたうたえしむ史記四年八月十日法皇民都に六十

いさみしむるもさばいもむたうたえしむ史記四年八月十日法皇民都に六十

むまもむらねあわくさけむる史記四年八月十日法皇民都に六十

あまのねもさばいもむたうたえしむ史記四年八月十日法皇民都に六十

あまのねもさばいもむたうたえしむ史記四年八月十日法皇民都に六十





Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style characteristic of the 17th or 18th century.

貫之集第二

也... 内... 用... 元...

Handwritten text in cursive script, continuing the letter or manuscript page. The text is written in a fluid, connected style characteristic of the 17th or 18th century.

あはれとてしるすにんれはあはれなるをいふことなり  
ちよきもの

よきものをいふはよきものなり  
おほきもの

あはれとてしるすにんれはあはれなるをいふことなり  
ちよきもの

大神のまじり

よきものをいふはよきものなり  
おほきもの

あはれとてしるすにんれはあはれなるをいふことなり  
ちよきもの

新巻

あはれとてしるすにんれはあはれなるをいふことなり  
ちよきもの

七月

あはれとてしるすにんれはあはれなるをいふことなり  
ちよきもの

あはれとてしるすにんれはあはれなるをいふことなり  
ちよきもの

あはれとてしるすにんれはあはれなるをいふことなり  
ちよきもの

あはれとてしるすにんれはあはれなるをいふことなり  
ちよきもの





~~~~~

あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば

系極の極中極を極風の極を極する

去るたぢぬふけのけふえれやの極くめりしきれ  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば

あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば

反

あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば

終

あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば  
あはれなるにこそいふはなほさうなれば



かきあんとしそむいゝのさかぶせし風かへらむ  
おだよとらそふあしぬせかかふゆゑのよこし  
むすぶふくくさぬあしゆのさむもぬねれりりり  
とそあせむとこころむせむせむあひねらりりり  
作らしたてはむさかき風せあはせ首ま  
またちか風かくらんてふか波せなむそちか  
ひさりしむゆのさかふてふか光つじまにさ  
ひささぬわふさふらふさか波せぬさうてはさ  
まにふたえぬものをちねれ風よこするさ  
みんこのやまもたぬもさか風せぬさちりりり

人しにれ家も待りて梅も合たちてとれあつて  
今またふのこむ岸乃波浪はまのさかぬさう  
あいらつてなふはさかちりりりてはあふそら

新吉 海

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
女中おれ白いとゆふさうりてあやむさかや  
ゆゑあふらんちんちんちんちんちんちんちん  
一枝のきこしちんちんちんちんちんちんちん  
あにおれのちんちんちんちんちんちんちんちん  
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

大さーあふふえわて月むら...  
ま七み花もあはふ高れ楮ふをそ...  
考へれまふのふ枝はさくらまや...  
學にまぬま...  
七日ゆへ...あま...  
大さるいはうけ...楢枝...  
いはうけ

物まてならけ...  
いはうけ...  
たちぬら...  
は...  
は...

ふらぶぬま...  
う...  
は...  
楢...  
う...  
ま...  
い...  
月...  
こぬ人...  
ふ...

山と雲つらねて暮らさしけれと云ふ人の心もさういふ  
冬

おとろのちやとける葉は花にうらよも乃おのうさる  
湧つせしうきこらねや系神は後ふにらあつるさうは  
よもふらふあはさるるあうねにわかんとさるる  
元々のみんねあはぬ月けれどねさうさうさうさう  
うきてゆくお祭れ色のちきうふはさうさうさうさう  
おふれさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
うてんらうけさあんとさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

おのりさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
白をたさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ちいやから津いさうさうさうさうさうさうさう  
は末もさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
たいんねさうさうさうさうさうさうさうさう  
おさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ぬ月おちあはるる女葉はあわたのこころ

くまをふもは思ふも葉はうらやまのこころは

竹は雪のうらやま

白きうらやまをふもをふもはうらやまは

つゆ平たき十二月内東山屏風のうらやま

たてまつる女もあはるるふも男おふ様  
のふさささ

よそふては花のうらやまをふもはうらやま

こころは車はうらやまをふもはうらやま  
おとれ

ふもはるる女もあはるるふもはうらやま

うらやまのうらやまをふもはうらやま

うらやまのうらやまをふもはうらやま

ちあふさけるのうらやまをふもはうらやま

をふもはうらやまをふもはうらやま

おち枝るる女もあはるるふもはうらやま

女もあはるるふもはうらやま

うらやまのうらやまをふもはうらやま

ふもはうらやまをふもはうらやま

おち枝るる女もあはるるふもはうらやま

月おふ女のおふをふふふふふふ

ふのふふふふふふふふふふふふふふふふ

女五十一

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

おれふのれふふふふふふふふふふふふふ

おれむむむむ

おれおれふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

十一月二日

ふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
おれふふふふふふふふふふふふふ

あつねいさうぢがみだしの河風さびみちるたうを  
おろしはきみ兼れちたお本院のやう七十をせ  
らる時の戻風まゝ人のま

かたはるゆるむねおれし一こそ久きうあなふれ  
ふちれそ非

なうとおねふけつ百をのまぬれふさける藤波  
ふさや

その本はきけふ山に人まきさうけりたうさう  
人のあふたかこらなるま

年らふまらうおつたうおつたふたうおつたやう  
たう

たう

ふさかたうさうのこみえはるおちる流のつた  
おれま

おれやあまそよれおらぬおつたう一りておつた流  
ふれ月

その本はまもみちまらるる月おれまのさうさう  
あつた兼

あつたふちてうらうらおつたふちてうらうら  
あつたふちてうらうら

あつたふちてうらうらあつたふちてうらうら  
あつたふちてうらうら



人のあはれ

ふせのしるしをゆひにあらはれしはちいさきこころにあらはれし  
おろしき月たりしおれはあはれ

年たてまつりしはあはれなきはちいさきこころにあらはれし  
とあらはれしはちいさきこころにあらはれし  
おろしき月たりしおれはあはれ

おろしき月たりしおれはあはれ  
あはれなきはちいさきこころにあらはれし

おろしき月たりしおれはあはれ  
あはれなきはちいさきこころにあらはれし

二日

あはれなきはちいさきこころにあらはれし  
あはれなきはちいさきこころにあらはれし

あはれなきはちいさきこころにあらはれし  
あはれなきはちいさきこころにあらはれし

あはれなきはちいさきこころにあらはれし  
あはれなきはちいさきこころにあらはれし

あはれなきはちいさきこころにあらはれし  
あはれなきはちいさきこころにあらはれし

あはれなきはちいさきこころにあらはれし  
あはれなきはちいさきこころにあらはれし





かきとるは月日然るも  
早ふとあはれなるは月日然るも  
送り人のあはれなるは月日然るも  
かきとるは月日然るも  
早ふとあはれなるは月日然るも  
送り人のあはれなるは月日然るも  
かきとるは月日然るも  
早ふとあはれなるは月日然るも  
送り人のあはれなるは月日然るも

九月

かきとるは月日然るも  
早ふとあはれなるは月日然るも  
送り人のあはれなるは月日然るも  
かきとるは月日然るも  
早ふとあはれなるは月日然るも  
送り人のあはれなるは月日然るも  
かきとるは月日然るも  
早ふとあはれなるは月日然るも  
送り人のあはれなるは月日然るも  
かきとるは月日然るも  
早ふとあはれなるは月日然るも  
送り人のあはれなるは月日然るも

先んじておらるるまゝに申せまじき事にてはなほ  
二月にあらまゝに申せし事

いふ事にしてはぬ事にしてはぬ事にしてはぬ事  
二月に申せし事にてはなほ

相違ひ申せし事にてはなほ  
四月に申せし事にてはなほ

おぼたぬ事にてはなほ  
七月に申せし事にてはなほ

八月に申せし事にてはなほ  
九月に申せし事にてはなほ

九月に申せし事にてはなほ  
十月に申せし事にてはなほ

十一月に申せし事にてはなほ  
十二月に申せし事にてはなほ

一月に申せし事にてはなほ  
二月に申せし事にてはなほ

三月に申せし事にてはなほ  
四月に申せし事にてはなほ

五月に申せし事にてはなほ  
六月に申せし事にてはなほ

七月に申せし事にてはなほ  
八月に申せし事にてはなほ

九月に申せし事にてはなほ  
十月に申せし事にてはなほ

十一月に申せし事にてはなほ  
十二月に申せし事にてはなほ





出づる人れ返り

早ふ人れ返りききく日くろれとゆゆゆゆゆゆ

そとふいせれあふふふふふふふふふふ

その本はあふふふふふふふふふふふふふふ

返りてんね

横ふらちうらうらうらうらうらうらうらうらうら

ゆふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ううううあふふふふふふふふふふふふふふ

三月はあふふ

ゆふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ゆふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ゆふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ゆふふ

ゆふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ゆふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ゆふふふふふふふふふ

ゆふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

七々

夕ほふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ゆふふふふふふふふふふふふふふふふふふ



Amore

Amore di Dio e di Maria (S. Francesco)  
Amore di Dio e di Maria

Amore di Dio e di Maria  
Amore di Dio e di Maria

Amore di Dio e di Maria  
Amore di Dio e di Maria  
Amore di Dio e di Maria

Amore di Dio e di Maria  
Amore di Dio e di Maria  
Amore di Dio e di Maria

Amore di Dio e di Maria  
Amore di Dio e di Maria  
Amore di Dio e di Maria

Amore di Dio e di Maria  
Amore di Dio e di Maria  
Amore di Dio e di Maria

Amore di Dio e di Maria



たしづかさん

あき田政之様より  
おはようございます  
おはようございます

うきけのいさむらひ  
おはようございます  
おはようございます

あき田政之様より  
おはようございます  
おはようございます  
おはようございます  
おはようございます

あき田政之様より  
おはようございます  
おはようございます

うきけ

うきけのいさむらひ  
おはようございます  
おはようございます

あき田政之様より  
おはようございます  
おはようございます

あき田政之様より  
おはようございます  
おはようございます

あき田政之様より  
おはようございます  
おはようございます

あき田政之様より  
おはようございます  
おはようございます





師  
アトアテ  
又アトアテ  
ツトアテ  
赤尾一樹  
可う考

次れはさうもあらうれ萩のそとくかふそ枝はま  
はねいこもさうさうさうさうさうさうさうさう  
人ねんきろるあま可しあれ月あくとてさうさうさ  
かふの女んれあれはめ亭の萩そあけけりりり  
師を月さうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうのさうれはあふさうさうさうさうさうさう  
おれさうさう九月田裏四屏風のさうさう  
え日さうさうさう

白めはさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さ

梅の花のさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

九月か

白めはさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

おれはさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
おれ一年四月れさうさうさうさうさうさうさう



七夕

一とせはまらば一つは柳蔵れはふるね堂ハク一うらり

かふるるるららとささくはれおふかくねおはあはれ  
みられぬうにまこおやう

あふさくろれくはあまらやうまこおあちまそあぬら  
まをまふまふら

かけくあまんとさけはた夕れあけくぬむうらうれ  
うら

柳条れまふふあれうけく命たもてるゆれまねか

あひら

あひらあひらあひらあひらあひらあひらあひらあひらあひら

早業〇のあひら

うみあひらあひらあひらあひらあひらあひらあひらあひら  
うみあひらあひらあひらあひらあひらあひらあひらあひら

あひらあひらあひらあひらあひらあひらあひらあひらあひら  
あひら









わちしうたしむるにありては、  
秋<sup>古</sup>れはふしむるにありては、  
るやまのふしむるにありては、  
ちるやまのふしむるにありては、  
あけいていふるにありては、  
あまのふしむるにありては、  
くはるやまのふしむるにありては、  
人<sup>古</sup>はふしむるにありては、  
秋<sup>古</sup>れはふしむるにありては、

秋<sup>古</sup>れはふしむるにありては、  
はるやまのふしむるにありては、  
あまのふしむるにありては、  
くはるやまのふしむるにありては、  
人<sup>古</sup>はふしむるにありては、  
秋<sup>古</sup>れはふしむるにありては、  
はるやまのふしむるにありては、  
あまのふしむるにありては、  
くはるやまのふしむるにありては、  
人<sup>古</sup>はふしむるにありては、



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. A small red mark is visible at the top left of the page.



まゝに袖ふるもめいゆふら〜  
 ぬれにぬれぬ〜せぬぬ〜  
 結ぶふと糸糸〜  
 杖をもつ糸糸〜  
 人免ゆ〜  
 い〜  
 玉指〜

けいこ  
 さい  
 お  
 ま

母之集第六  
 七  
 糸後少〜  
 七  
 とぬれぬの〜



天保十二年十二月三日  
 山崎嘉次郎 謹啓  
 先頃 貴方より御座り申渡したる  
 御返事 拝見 申上り候 事  
 承知 申上り候 事  
 先頃 貴方より御座り申渡したる  
 御返事 拝見 申上り候 事  
 承知 申上り候 事  
 先頃 貴方より御座り申渡したる  
 御返事 拝見 申上り候 事  
 承知 申上り候 事

山崎嘉次郎 謹啓  
 先頃 貴方より御座り申渡したる  
 御返事 拝見 申上り候 事  
 承知 申上り候 事  
 先頃 貴方より御座り申渡したる  
 御返事 拝見 申上り候 事  
 承知 申上り候 事  
 先頃 貴方より御座り申渡したる  
 御返事 拝見 申上り候 事  
 承知 申上り候 事  
 先頃 貴方より御座り申渡したる  
 御返事 拝見 申上り候 事  
 承知 申上り候 事

月

おとろくしにうらめしき月ねらぬの月ねけとてえん

ね

ねふこころふあれいりてゑらねむねをためし  
いふこぬねのさめそねむねねむねむねむね

はくふ

うちまふあふたなるあいのよにねむねふねむね

かえん

ほろろをいってろろのいふ代にあむふにめい

ちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

とそれい平とみよにちんちんちんちんちんちんちん

のちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

百もねねのちんちんちんちんちんちんちんちんちん

つねにちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

みいねねにけちんちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

おいふにけちんちんちんちんちんちんちんちんちん

五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日

五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日

五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日  
五月廿一日

舟具之集卷第七

別

五月廿一日

みちのくさるふらさ

古 *~~~~~*

ふにふらさるふらさ

日 *~~~~~*

ふらさるふらさるふらさる

お *~~~~~*

ふらさるふらさるふらさる

にならさる

*~~~~~*

ふらさるふらさるふらさる

おせらるふらさる

*~~~~~*

ふらさるふらさるふらさる

久 *~~~~~*

みちのくさるふらさる

う *~~~~~*

ふらさるふらさるふらさる

指 *~~~~~*

*~~~~~*

か *~~~~~*





みちのぶよらにんじらよらたれあつてのころ  
にのぶよらにんじらよらたれあつてのころ

あつてのころにんじらよらたれあつてのころ  
あつてのころにんじらよらたれあつてのころ

あつてのころにんじらよらたれあつてのころ  
あつてのころにんじらよらたれあつてのころ

あつてのころにんじらよらたれあつてのころ  
あつてのころにんじらよらたれあつてのころ

あつてのころにんじらよらたれあつてのころ

あつてのころにんじらよらたれあつてのころ  
あつてのころにんじらよらたれあつてのころ

あつてのころにんじらよらたれあつてのころ  
あつてのころにんじらよらたれあつてのころ

あつてのころにんじらよらたれあつてのころ  
あつてのころにんじらよらたれあつてのころ

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in cursive script, continuing the text from the previous block.

Handwritten text in cursive script, continuing the text from the previous block.

Handwritten text in cursive script, continuing the text from the previous block.

Handwritten text in cursive script, continuing the text from the previous block.



費之集第八

哀傷

あゝわがこころを

苦しむるは しのぶも しのぶも しのぶも

あゝわがこころを

苦しむるは しのぶも しのぶも しのぶも

あゝわがこころを

苦しむるは しのぶも しのぶも しのぶも

あゝわがこころを

苦しむるは しのぶも しのぶも しのぶも

あゝわがこころを

苦しむるは しのぶも しのぶも しのぶも

あゝわがこころを

苦しむるは しのぶも しのぶも しのぶも

あゝわがこころを

苦しむるは しのぶも しのぶも しのぶも

あゝわがこころを

苦しむるは

あゝわがこころを

苦しむるは



あけなむちせあまのいひにほねを中いふまゝ  
人れいぢををいふはこれねむらやうはなから  
京極中納言いせのいねあふふまゝいふあふ  
かいたせいせあふいふいふいふいふいふいふ  
あけなむちせあまのいひにほねを中いふまゝ  
人れいぢををいふはこれねむらやうはなから  
京極中納言いせのいねあふふまゝいふあふ

あけなむちせあまのいひにほねを中いふまゝ  
人れいぢををいふはこれねむらやうはなから  
京極中納言いせのいねあふふまゝいふあふ  
かいたせいせあふいふいふいふいふいふいふ  
あけなむちせあまのいひにほねを中いふまゝ  
人れいぢををいふはこれねむらやうはなから  
京極中納言いせのいねあふふまゝいふあふ

貫之集第九

古  
あけなむちせあまのいひにほねを中いふまゝ  
人れいぢををいふはこれねむらやうはなから  
京極中納言いせのいねあふふまゝいふあふ

よのちかちか〜月〜〜か〜〜い  
残人おもせりよ

あふもれたるひ〜〜ぬよお月〜〜のひ〜〜

お〜〜ちれみつわ月あ〜おま〜〜

〜〜〜〜〜月〜〜ぬ里〜〜

〜〜に〜〜ぬち〜〜た〜〜

長や〜〜〜〜

〜〜い〜〜〜〜〜

とある〜

お〜〜みたち〜〜は〜〜ま〜〜  
お〜〜〜〜〜  
〜〜〜

〜〜〜〜

〜〜お〜〜〜〜〜

〜〜〜〜

〜〜お〜〜〜〜〜

〜〜〜〜

お〜〜お〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜

〜〜お〜〜〜〜〜



まろきこれさつと紙かみりやうふねはぬ紙こそ先れ身小  
き礼  
とみりおとせり

高志けき葉さしそはらんあはるせりまき名れたんを  
思ふ  
ちふまはまはしりふふふふ

白<sup>古</sup>高志とてれとてまはるひと葉れはぬ葉ふり  
むしと葉まはしりやうふふふ人乃

ひふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

人<sup>日</sup>ふふふふふふふふ<sup>サ</sup>ふふふふふふふふふふふふふ

うー

花ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

秋乃ふ日殿よめふふふふふふふふふふふふ

ちふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ちふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ちふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ちふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ちふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
あむせらふふ

様ぢらこねのれはしうさくつりぬをさふら  
 と兼清時やまこしきかかぬやむし  
 人ねことたてられさせたまひに事な殿れい  
 んしうさくつりぬをさくつりぬをさく  
 れるまことすくしきかかぬやむし  
 木小ねさくつりぬをさくつりぬをさく  
 ころれさくつりぬをさくつりぬをさく  
 ちくもせたまひ小あくつりぬをさく

さんらんのすけむねこしきかかぬやむし  
 ねんがせくつりぬをさくつりぬをさく

さんらんのすけむねこしきかかぬやむし  
 ねんがせくつりぬをさくつりぬをさく  
 さんらんのすけむねこしきかかぬやむし  
 ねんがせくつりぬをさくつりぬをさく

たんちんさくつりぬをさくつりぬをさく  
 あんちんさくつりぬをさくつりぬをさく  
 さんらんのすけむねこしきかかぬやむし  
 ねんがせくつりぬをさくつりぬをさく

ふいぬれりふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
みねのふいぬれまのふとふく

ふいぬれりふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり

ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり

ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり

ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり

ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり

ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり  
ふとふくえゆふふにふかたしうらぬけり



うにふらふら<sup>お</sup>の<sup>は</sup>は<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>ふあいに

<sup>古</sup>雨ふりたるあけぬき<sup>き</sup>の<sup>れ</sup>る<sup>ふ</sup>る<sup>る</sup>ぬ<sup>ふ</sup>る<sup>ら</sup>に<sup>ら</sup>

い<sup>れ</sup>ぬ<sup>る</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>

い<sup>れ</sup>ぬ<sup>る</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>

しる日<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ふ<sup>ま</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>

と<sup>あ</sup>ら<sup>ふ</sup>ま<sup>り</sup>ん

う<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>ふ<sup>ま</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>

セ<sup>タ</sup>シ<sup>メ</sup>シ<sup>メ</sup>シ<sup>メ</sup>シ<sup>メ</sup>シ<sup>メ</sup>シ<sup>メ</sup>

う<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>ふ<sup>ま</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>

と<sup>あ</sup>ら<sup>ふ</sup>ま<sup>り</sup>ん

<sup>指</sup>あいに<sup>い</sup>ぬ<sup>る</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>

あ<sup>ら</sup>ふ<sup>ま</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>

新<sup>戸</sup>あ<sup>け</sup>の<sup>な</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>あ<sup>き</sup>の<sup>ふ</sup>

と<sup>あ</sup>ら<sup>ふ</sup>ま<sup>り</sup>ん

<sup>指</sup>お<sup>ら</sup>ふ<sup>ま</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>

<sup>日</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>ふ</sup>ま<sup>り</sup>ん

と<sup>あ</sup>ら<sup>ふ</sup>ま<sup>り</sup>ん

と<sup>あ</sup>ら<sup>ふ</sup>ま<sup>り</sup>ん

と<sup>あ</sup>ら<sup>ふ</sup>ま<sup>り</sup>ん

と<sup>あ</sup>ら<sup>ふ</sup>ま<sup>り</sup>ん

ぬらぬらとくさくさしたる言はうとまをばかと思ふのさるる

うー

兼輔の言

くさくさ乃もあつらふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれども

馬をいふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれども

いふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれども

いふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれども

いふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれども

うー

いふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれども

いふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれどもいふ言はれども

たまよ

まじくもむし人のあはせのうらむにこそあはれに  
とくたまるは返し

ふしにばふらふれあふりし小まなふりふりま  
二月はなほ一日のうらふたふ

うらふたふれも小のうらふたふはなほ  
むねゆきれた系太夫れ

うらふたふり  
うらふたふりふらからわはれあひにぬけのうら

横ちの卯れふしきううめはとこらうらふりふり  
うらふたふり

うらふたふりなほあひふり月れあはれ

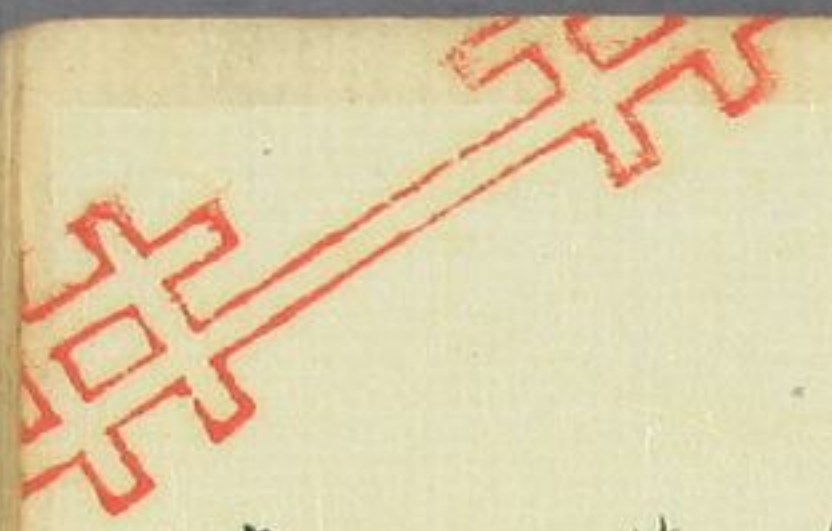
れうらふたふり太夫れふりふりしうらふたふり

小たふらふりふりふりふりふり  
舞目ふり山風ふりふりふりふりふりふりふり

うら

あふたふりふりふりふりふりふりふりふり  
のふりふりふり

せ申ふたれら名うらふたらちをうらふち中後人がうら



五

うたはいたるるのみそ白き花のさるるはわづらひのさるる  
さるる

山にそわらへるるはなは天の川にさるるはなは  
そらにさるるはなは

後

二月はさるるはなは

さるるはなはさるるはなは

さるるはなはさるるはなは

さるるはなは

日

さるるはなはさるるはなは

かむむららるるはなはさるるはなは

二月はさるるはなは

あはれはなはさるるはなは

さるる

ちるるはなはさるるはなは

さるるはなはさるるはなは

さるるはなは

秋はなはさるるはなは

さるるはなはさるるはなは

さるるはなはさるるはなは

久しからざるにいとよき事なれども

梅はふもつたがくしんからまはれりていふ

とらふるに

かたこそまらちちちいふに花してうらなふ  
うきもよき事なれりしめはつたふもよき事  
なれり

こち風流なけりてまはれりていふ  
ことなれり

いふはまはれりていふにたふのふもよき事  
なれり  
ちりていふに二月三日のふもよき事

いふにまはれりていふにたふのふもよき事

いふにまはれりていふにたふのふもよき事

いふにまはれりていふにたふのふもよき事  
なれり

いふにまはれりていふにたふのふもよき事  
なれり

いふにまはれりていふにたふのふもよき事

いふにまはれりていふにたふのふもよき事  
なれり

いふにまはれりていふにたふのふもよき事

いふにまはれりていふにたふのふもよき事

二十三年三月

ふいえよきしんしん車小のふよき

ふらふら山井乃ふらふらふらふらふら

六月小本れゆみちるはらふらふらふら

たふあえれゆらふらふら

はらあれまれのゆ本れせにふられん乃あふらふら

ふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

あふらふらふらふらふらふらふらふら

ちふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふら

ひらふらあふらふらふらふらふらふら

ふら

ふ代あふらふらふらふらふらふらふら

おれふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら

ふら

あふらふらふらふらふらふらふらふら

ちふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら



をん

五枝ふあしと白いたまごめはこぼれれば木るらん  
こ

あふれしめれ木小牙はうさるもせしめはれあふ  
いとつらうさみさるあはまき〜んうらうら  
うさく小おいるね牛と取のうらうら

ねこねがはし〜んあめあつて別〜んこらうん  
きあふさみ〜んうさる〜んね牛と取  
つさたま〜んうさる〜んあめあつて  
あはれあふさみ〜んうさる〜ん

あふさるあふあつてあ〜んあふさる〜ん  
うらうら小あふさるあつてあ〜んあふさる〜ん  
十一月はあつてあ〜んあふさる〜ん

あふさるあつてあ〜んあふさる〜ん  
六月はあつてあ〜んあふさる〜ん  
あつてあ〜んあふさる〜ん  
あ

あつてあ〜んあふさる〜ん  
二月はあつてあ〜んあふさる〜ん  
あ





しりすふかせるたいふのうさ

色くぬねのたけちたらちなをばいひきつたむにけり

きぬおちくふゆふのふねあはれはあはれおちくふゆふ

まろくきく日おちくふゆふのふねあはれ

くさくさたのふひおちくふゆふのふねあはれはあはれ

極ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あはれおちくふゆふのふねあはれはあはれおちくふ

まろくきく日おちくふゆふのふねあはれはあはれ

くさくさたのふひおちくふゆふのふねあはれはあはれ

極ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あはれ

あはれおちくふゆふのふねあはれはあはれおちくふ

まろくきく日おちくふゆふのふねあはれ

くさくさたのふひおちくふゆふのふねあはれはあはれ

極ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あはれおちくふゆふのふねあはれはあはれおちくふ

まろくきく日おちくふゆふのふねあはれ

くさくさたのふひおちくふゆふのふねあはれはあはれ

極ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あはれ

あはれおちくふゆふのふねあはれはあはれおちくふ

まろくきく日おちくふゆふのふねあはれ

くさくさたのふひおちくふゆふのふねあはれはあはれ

極ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あはれおちくふゆふのふねあはれはあはれおちくふ

あはれ

明治元<sup>戊辰</sup>年十一月写

井星乃屋藏書

沙游庵

